

自己評価結果公表シート

2020年度

明星幼稚園

1. 園の教育目標

元気なよいの育成

- 自ら考え主体的に行動できる。
- 周りの人の気持ちがわかり集団生活の中で生きる力を身につける。

2-1. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画(全体事業計画)

(1) 就学に向けて

小学校就学に向けて、確かな学力につながる学びの芽生え、健康・基礎体力につながる「生活習慣・運動」を身に付け、社会生活における望ましい「態度や習慣」、「他者への思いやり」及び「協同の精神」の芽生えを促します。

(2) 一貫教育の推進

明星小学校との連携事業を活用し、幼小合同研修会において相互理解を深め、一貫教育の充実へと結び付けます。

(3) 教育目標達成に向けて

ルーブリック評価を実施し、卒園までの3年間の成長を可視化し具体的な教育活動やカリキュラムマネジメントへ生かします。さらに教員研修により各教員が課題意識を持ち、教育力向上を目指します。

(4) 心の教育

園児に小動物（熱帯魚、小鳥等）を身近に感じさせることで、興味を持たせ心の安定を図ります。また心の成長を促すために各担任や園長講話では園児に分かりやすく命の大切さ、社会生活、自然現象、数の知識等を伝え、保護者に対して幼児期に非認知能力を育成する重要性を説いていきます。

(5) 子育て支援

子育て支援として、未就園児対象「ひよこクラス」及び1歳児対象「びよびよクラスファースト」をさらに充実させます。また、2歳児プレスクール「びよびよクラスセカンド」を継続して行い、次年度入園に向けての準備をしていきます。

(6) 教育現場における園児のリスク管理及び個人情報の管理体制強化

危機管理マニュアルに基づいた訓練・研修を継続実施するとともに、個人情報保護についての理解を深め、その留意事項を日常業務に生かしていきます。

2-2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画(学年毎の計画)

| |
|--|
| (1) 年少 保育者や友だちと一緒に遊んだり活動したりすることを喜ぶ。 |
| (2) 年中 保育者や友だちとかかわってのびのびと活動し、ともに過ごす楽しさを味わう。 生活に必要な基本的な生活習慣や態度を身につける。 |
| (3) 年長 友だちと一緒に園生活を十分に楽しみ、意欲的に遊びや活動に取り組むとともに主体的に行動して充実感を味わう。 |

3-1. 評価項目の達成及び取組状況(全体事業計画)

| 評価項目 | 結果 | 理由 |
|-------------------|----|---|
| (1) 就学に向けて | B | 保護者アンケート結果より 「小学校就学に向けて、学びにつながる意欲が芽生えましたか。」という設問では、満足度(とてもそう思う・そう思うの合計：以下満足度とする。)では、全体で78%であった。昨年は75%だったのでほぼ同じ結果となった。 特に年長では63%と全体の中では低い結果となったが、これは分散登園などが影響していると考えられる。 しかし次年度以降は就学に向けて、保護者のニーズを理解し、すでにカリキュラムにある項目を保護者に周知した上で、明星小学校と協議し、意図的にカリキュラムを組み、実施するなど充実させる必要がある。 |
| (2) 一貫教育の推進 | A | 保護者アンケート結果より 「明星小学校との活動により明星小学校についてよく知ることができたか」については、コロナ禍において保護者と園児のすべての交流がなくなり、満足度は45%となったものの、小学校教員が園の管理職を兼務することで年長では52%と半数の満足を得ることができた。 |
| (3) 教育目標達成に向けて | B | 〇ループリック評価 年中・年長では昨年度末、前年の学年の評価をもとに今年度の学年目標を立て、計画立案、学期ごとの反省、年度末の振り返り、さらに次年度への申し送りとして実施した。 年少は臨時休園により年度当初は実施せず、10月と2月の2回のみ実施した。 臨時休園、分散登園の中、教員は配信やホームワーク等カリキュラムを工夫し保育を進め、特に年長組では、目標に挙げた項目以外でも成長が見られた。 ループリック評価から見た各学年の傾向 年少 「社会性・共同性や自分の思いを言葉で相手に伝える」では大きな成長が見られたが、そのほかの領域では10月以降の伸びがほとんど見られなかった。 |

| | |
|--------------------------------------|--|
| | <p>年少時代には幼稚園での生活が発達に重要な部分を占めるが、コロナの影響により、登園日数が少なかったこと、年中長園児との関りがほとんどなかったことにより、年上の幼児から影響を受ける機会がなかったことなどがあげられる。</p> <p>この結果を次年度の計画に意図して落とし込む必要がある。</p> <p>年中</p> <p>全ての項目で成長が見られた。</p> <p>特に「集団生活に必要なルールや決まりを守る。」「困っていたり泣いている子に思いやりをもって接する。」「出来ないこと苦手なことがあっても逃げずに向き合う。」「リーダーシップを発揮する。」の領域で大きな伸びが見られた。</p> <p>3 学期 2 度目の緊急事態宣言下での分散登園では自宅で Zoom による朝の会に参加し、集中して担任の話や読み聞かせを聞くことが習慣づいた様子も見られた。</p> <p>年長</p> <p>全ての領域・テーマにおいて作年度以上の伸びが見られた。</p> <p>特に</p> <p>「集団生活に必要なルールや決まりを守る。」</p> <p>「困っていたり泣いている子に思いやりをもって接する。」</p> <p>「出来ないこと苦手なことがあっても逃げずに向き合う。」</p> <p>「リーダーシップを発揮する。」</p> <p>「物事の良し悪しを判断し、自発的に行動する。」は昨年度末から大きくポイント増という結果だった。</p> <p>○教員研修についてはコロナ禍においてオンラインの研修がほとんどであり、園内研修、幼小合同研修など全員での実施は感染防止の観点から見送ることとした。</p> <p>各教員は可能な範囲で研修を行った。新人 2 名については、新人研修をオンラインで複数回受講し、園長研修も数回行った。</p> |
| (4) 心の教育 | <p>A 保護者アンケート結果から</p> <p>「園生活において小動物を身近に感じるようになりましたか」「園はお子様に命の大切さ、社会生活、自然現象、数の知識などを伝えられていると思うか」については、昨年よりは満足度が若干落ちたもののコロナ禍においては同等とみなせると考える。</p> |
| (5) 子育て支援 | <p>B 2 歳児クラス、1 歳児クラス、未就園児園庭開放などと、未就園を招いての活動が今年度は縮小となったが、2 学期以降再開した際には保護者の入園後の不安を解消するための有意義な活動となった。</p> <p>コロナ対応については、保護者アンケートの自由記述から少数派ではあるが、休園や分散登園で保護者の育児の負担が大きかったとの意見があった。</p> |
| (6) 教育現場における園児のリスク管理及び個人情報の管理体制強化 | <p>A 保護者アンケート結果により昨年同様に保護者に周知と徹底がなされ、園内においても教職員が園児のリスク管理及び個人情報の管理体制を常に念頭に業務にあたっている。</p> |

3-2. 評価項目の達成及び取組状況(学年毎の計画)

| 評価項目 | 結果 理由 |
|---|---|
| <p>(1) 年少 保育者や友だちと一緒に遊んだり、活動したりすることを喜ぶ。</p> | <p>A</p> <p>保護者アンケート 「お子様は友だちや先生と一緒に遊んだり活動することを楽しいと感じていますか」 →そう思う・とてもそう思う合計 99%</p> <p>○自分の思いを言葉で相手に伝える (ループリック 10月 2.27→年度末 2.77)</p> <p>◎6月に始まった入園から、徐々に安心して登園出来るようになり、自分の思いを表現するようになっていった。まだ言葉で伝えることが難しい場面も多いため、担任が個々に思いを汲み取り、確認するなど援助が必要だった。 保育者や友だちとの言葉のやりとりを通して、生活の場面に適した必要な言葉を習得することへつながっていった。その中では常に保育者が手本となり正しい言葉遣いを知らせていった。</p> <p>◎2学期には概ね園生活に慣れ、臆せず自分を出しながら生活する姿が多くなった。「貸して」「入れて」などの言葉を使い、積極的に遊びの輪に参加する姿も見られた。また保育者に困っている事、援助してほしい事を言葉で伝えることも出来るようになった。一方友だちの間では双方の語彙や理解が未熟なため誤解を招いたり、主張が強すぎてトラブルになることも見られた。 1学期から引き続き一人ひとりの気持ちを汲み取りながら言葉の伝え方を知らせ、保育者が正しい言葉遣いを用いることで手本となれるように意識していった。</p> <p>◎1年間を通して一人ひとりに合わせた援助や指導をすることで、自分の思いを言葉で伝えることが上達し、遊びの中でも言葉でのやりとりが増え、直接気持ちを伝えることが出来るようになった。 友だちとトラブルになった際に自分たちだけで解決することは難しいが、少しずつ相手の気持ちを察して、譲ったり、我慢したり、解決策を考えたり、状況を詳しく伝えようとする姿も見られるようになった。</p> <p>→A</p> <p>○集団生活に必要なルールや決まりを守る (ループリック 10月 2.33→年度末 2.71)</p> <p>◎6月から分散登園で再開した1学期は友だちとの関りが少しずつ増えたことで、玩具や場所の取り合いなどのトラブルが多く見られたが、子ども同士で声を掛け合い、ルールを守ろうとする気持ちも芽生え始め、良いこと悪いことを知らせながら大きな不安を感じることなく過ごせるようになってきた。</p> <p>子どもたちにわかりやすい方法（○や×など）でルールや決まりを知らせ、どうしたら友だち</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>と楽しく遊べるかを繰り返し伝え、援助をしてきた。</p> <p>◎ 2 学期は全員登園になり、友だち関係に広がりが見られた。互いにルールや約束事を教え合う姿も見られ、基本的な生活習慣もだいぶ身に付いてきた。園生活に慣れ、自信をもって生活する姿も見られるようになってきた。</p> <p>◎ 3 学期は進級に向け、1・2 学期に身に付けた生活習慣やルール、決まりを再確認することで子ども自らが意識して生活出来るようになった。</p> <p>戦いごっこなど活発な遊びをしている友だちに「走ったらいけないよ」などと教えあう姿も見られた。</p> <p>その子なりの取り組みを褒めたり、他児に知らせたりすることでクラス全体が共有し、意識しながら生活出来るようになっていった。また、話を聞く姿勢や態度にも成長が見られた。</p> <p>→ A</p> <p>○動植物に興味を持ち観察し、世話をする (ルーブリック 10 月 2.39→年度末 2.48)</p> <p>◎ 入園当初は臨時休園や分散登園となり、登園しても戸外に出る機会が少なかった為、例年のように野菜のプランターに水やりをすることがあまり出来なかった。その分生長に気が付けるよう担任が声をかけ、写真で生長過程を見せたことで興味や関心を持つことが出来た。</p> <p>昆虫の観察に興味を持ち、日々の変化に気が付く子どもも多かった。友だちが触っている様子を見ると、興味が無かった子どももつられて覗き込んでいた。</p> <p>◎ 室内でのヒヤシンス水栽培では、子どもたちの見やすい場所に置くことで生長の変化に気が付きやすく、毎日観察している子どもが多かった。さらに生長過程を写真にして貼り出しておくことで振り返りが出来、多くの子どもが興味関心を持つきっかけとなった。</p> <p>1. 2 学期に育てていたカブトムシやアゲハ蝶の幼虫の写真等も提示し続けていることで、興味を示さなかった子どもも観察しはじめ、関心を広げていった。</p> <p>◎ 3 学期は球根を植えたチューリップの生長に興味を持ち、発芽や花が咲く過程などの変化を観察し、保育者や友だちと共有する姿が見られた。</p> <p>クラスによっては家庭で育てている植物にも目を向け、興味を抱く子がいたり、劇遊びに出てくる虫や動物を図鑑等で調べ、より興味や関心を持つようになった。</p> <p>寒暖差が激しいことで、寒さや暖かさなど気候の変化に気付く子ども増えた、季節の移り変わりを知らせるきっかけとした。</p> <p>→ B</p> |
| <p>(2) 年中</p> <p>○保育者や友だちとかかわってのびのびと活動し、ともに過ごす楽しさを味わう。</p> <p>○生活に必要な基</p> | <p>A</p> <p>保護者アンケート</p> <p>「お子様は保育者や友だちとかかわってのびのびと活動し、ともに過ごす楽しさを味わう。」</p> <p>→そう思う・とてもそう思う合計 98%</p> <p>「お子様は生活に必要な基本的な生活習慣や 態度を身につける。」</p> <p>→そう思う・とてもそう思う合計 88%</p> <p>○意欲的に取り組み、達成感を味わう</p> |

本的生活習慣や態度を身につける。

(ループリック 昨年末 2.73→今年度末 3.14)

通年とは異なる学期はじめとなったが、分散登園ということで、進級当初は個々の園児とコミュニケーションを密にとり、安心して遊びを進められる環境設定に努めた。

必要なきまりや約束事は、言葉と共に目で見てすぐに判断ができるよう（ユニバーサルデザイン）分かりやすいイラスト表示（生活ボード）を活用し、繰り返し知らせた。

その他“ちくちく言葉”や“ふわふわ言葉”などクラス全員で気持ちよく過ごすための話し合う時間を設け、相手の気持ちに気づいたり、考えたりする場を設定した。

2 学期は自己主張が増え、自分の思いを押し通そうとすることからトラブルが増えたが、保育者が仲立ちとなり、両者の意見を受け止めながら、どうしたらよかったのかを繰り返し丁寧に伝えると共に、自分たちで解決しようとする姿を認めることに努めた。

その結果 3 学期には自己主張は強いものの、相手の言葉に耳を傾けようとする姿が見られるようになり、集団で同じ遊びを楽しめることが増えた。

クラスの一員としての意識が醸成され、集団でのごっこ遊びや協力する楽しさを味わえる宝さがし、リレーごっこなどを設定することで、新しい事柄に興味・関心を持ち、様々な活動に意欲的に参加する姿が多くみられるようになった。

→ B

○動植物に興味を持ち、観察し世話をする

(ループリック 昨年末 2.52→今年度末 3.00)

クラスで育てている動植物の成長に興味・関心が持てるよう、保育者が積極的に写真やイラストなどを活用し、クラスに掲示するなど環境設定に努めた。

休園や分散登園中には“しぜんはかせ”という、季節に合った自然や身の回りの不思議に気づけるよう教材作成を行った。

3 学期には分散登園中のオンライン配信（Zoom）で“今日は何の日”として日付と共に記念日を知らせたり、寒い日には戸外で氷ができることを紹介したりするなど、季節の変化や次の日の保育に繋がる豆知識を紹介した。

繰り返すうちに保育者が伝えた事柄の意味を理解する子が増え、難しい説明にも自分なりに疑問を持ち、新しい事柄に対して発見する喜びや気づく楽しさを感じる子どもが増えた。

身の回りに目を向ける機会が増えたことで、登園時にチューリップの球根の成長に喜んだり、クラスで飼っているザリガニやカタツムリの変化に気づいたりした。観察する楽しさも友だち同士で共有して発見を楽しむ姿が 3 学期には見られるようになった。

休園と分散登園が続いた結果、この 1 年間で身の回りの動植物の世話を子供たちが自ら行う事は難しかった反面、Zoom 配信により集中して担任の話を聞く習慣が付き、例年よりも季節の変化や身近な不思議など、担任が話す内容に興味・関心を示す子どもが増え、自分から新しく発見する喜びを友だちや保育者へ発信、共有する力を伸ばすことが出来た。

→ A

| | |
|---|---|
| | <p>○気持ちを素直に表現し、受け入れられる心地よさを感じる</p> <p>進級当初は環境の変化に戸惑い、保育者や友だちの言葉に素直に耳を傾けることが難しい場面も多くみられたが、一人ひとりの特性を保育者が理解し受け止めながら、焦らずにゆったりと認める雰囲気作りに努めることで、クラスの中で安心して過ごせる子ども徐々に増えていった。</p> <p>2 学期はさらに安心して園生活を送ることができるようになった。</p> <p>友だちと積極的にかかわる中で自己主張から対立が増えたが、担任が仲立ちとなり、個々に話し、クラス全員でどうしたら良かったのかを話し合う場を設け、全員が気持ちよく過ごせる環境づくりを子供たちと一緒に考えるように努めた。</p> <p>子どもたちに伝えた事や話し合った内容は保護者会やクラス通信で保護者にも伝え、成長した点や今の課題などを知らせるように努め、年中時の成長の過程や特徴を保護者と共有し、子育て支援を意識した活動となった。</p> <p>3 学期になると、子どもたちはクラスの全員で過ごすことを望み、それを楽しむことができるようになったため、保育者が集団遊びなどを積極的に提案し、“楽しそう”と感じる場面づくりに努めたことで、集団活動に対して積極的に楽しもうとする雰囲気がクラス全体に広がっていった。</p> <p>→ B</p> |
| <p>(3) 年長</p> <p>友だちと一緒に園生活を十分に楽しみ、意欲的に遊びや活動に取り組むとともに主体的に行動して充実感を味わう。</p> | <p>A 保護者アンケート</p> <p>「お子様は友だちや先生と一緒に遊んだり活動することを楽しいと感じていますか」 →そう思う・とてもそう思う合計 98%</p> <p>「お子様は友だちや先生と関わってのびのびと活動し、ともに過ごす楽しさを感じていますか」 →そう思う・とてもそう思う合計 98%</p> <p>「お子様は友だちと一緒に園生活を十分楽しみ、意欲的に遊びや活動に取り組むとともに主体的に行動して充実感を感じていますか」 →そう思う・とてもそう思う合計 95%</p> <p>○困っていたり、泣いていたりに思いやりを持って接する (ループリック 昨年末 2.70→今年度末 3.36)</p> <p>クラスとして過ごす時間が多くなり、クラスの一員としての自覚が持てたことで仲間意識が強くなった。</p> <p>行事では運動会（今年度はスポーツフェスティバル）のクラス対抗リレーや劇遊びの活動を通してクラスとして団結し、成功させることで達成感を味わうことができた。</p> <p>その中で子どもたち同士声を掛け合い、困っている子に目を向け援助することが出来るようになった。</p> <p>自己中心的な行動もまだ多いが、自分がしてもらって嬉しいこと、されたら嫌なことを自ら考え、気を付けようとするので、一人ひとりが他者に対して思いやりを持って接することが出来るようになった。</p> |

「困っている」「助けてほしい」と言葉にして伝え自己表現が出来るようになり、何に困っているのか、どうしてほしいのかが明確になり、相互に手を差し伸べやすくなった。これらの観点からクラスの友だちに対しては目標を達成することが出来たと考える。

→B

○出来ないこと苦手なことがあっても逃げずに向き合う

(ルーブリック 昨年末 2.91→今年度末 3.66)

1年間を通して様々な活動や行事に参加する中で、出来ないことや苦手なことの壁にぶつかる場面が多々あった。その都度友だち同士で励まし合い、出来たときに大いに認めあうことで少しずつ自信が付き、あきらめずに取り組む姿が多く見られるようになった。

1学期の時点では自信がなく消極的だったことや、人前での発言をためらっていた子どもも、3学期になると友だちの輪の中に自ら入っていき、人前での発表をしたり出来るようになった。

失敗を厳しく指摘されない、受け止めて励ましてもらえるクラスの雰囲気醸成されたと同時に、数々の成功体験から自信が持て、自己肯定感が育った点が評価できる。

昨年の年中組年度末時点のルーブリック評価では低かったテーマだが、年長児としてのそれぞれの自覚や心の成長とともに、出来なくても頑張ってみようとする気持ちを持つことが出来た。目標は大いに達成したと考える。

→A

○小学校に向けての就学準備をする

今年度は1学期から机を前向きにすることで、小学校に向けて話を集中して聞けるような環境を設定した。

全員が前を向いていることで、担任だけではなく、友だちの発言にもきちんと耳を傾けることが出来た。

生活習慣では、自ら手洗いうがいをしたり、生活ボードを見ながら準備を進めていこうとしたりする姿が多く見られた。

担任の指示を待つ姿もまだ見られるが、子どもたち同士で声を掛け合い教え合いながら、考えようとする姿も2学期後半からは見られるようになった。

3学期にはそれぞれが就学を意識し、時計での時間の確認、鉛筆を持ってみる活動、文字を読んでみる活動などにも感心を持つようになった。就学に向けての準備としては目標が達成できた。

→B

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

| 結 果 | 理 由 |
|-----|--|
| A | コロナ対応に追われながらであったが、教員は日常の業務に保育後 1 時間にも及ぶ玩具教具の消毒、保護者対応、配信、行事の変更など、多岐にわたるこれまでにない対応を強いられた。臨時休園や分散登園期間は近隣の園の中で比較して期間が長かったが、限られた保育時間の中でも質の高い保育を実施できたこと、それを保護者アンケートおよびループリック評価で確認できたことを評価したい。 |

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

| | |
|---|--------------------|
| A | 十分達成されている |
| B | 達成されている |
| C | 取り組まれているが、成果が十分でない |
| D | 取組が不十分である |

5. 今後取り組むべき課題

| 課 題 | 具体的な取組方法 |
|-----------|---|
| 次年度カリキュラム | 今年度入園が 6 月や分散登園が長期になり、年少組、年中組ではループリックに定めたテーマそれぞれが目標に達していなかった。その結果を次年度の目標に落とし込み、個々の成長を促す必要がある。 |
| 一貫校としての活動 | 一貫校としての具体的な取組を実施し保護者へ可視化する。例えば小学校教員による言葉、数量、考える力などを伸ばす取組みやスムーズな小学校への接続を見据えた活動など。 |

※記入に際しての留意点

- 「3. 評価項目の達成及び取組状況」の理由については、指標や基準等の内容に基づいた成果や取組の状況、評価結果の根拠を記入する。
- 「4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「3. 評価項目の達成及び取組状況」を総合的に評価して記入する。
- 「5. 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。
- このシートを作成するに当たり、教職員の「個人評価シート」や、個々の指標や基準等を評価する「補助シート」を作成することも考えられる。